



西九州させぼ
広域都市圏



TURNS

[ターンス] 特別編集



あなたが
かえるまち

西九州



【移住者インタビュー】

West Kyushu

西のまちの暮らし

佐世保市 / 平戸市 / 松浦市 / 西海市
東彼杵町 / 川棚町 / 波佐見町
小値賀町 / 佐々町

佐々町



清らかな川のまち

町の中心を清流佐々川が流れる、コンパクトにまとまった街。都会とは違った小さい町ならではの心地よさがあります。西九州自動車道が開通して県内各地や福岡までのアクセスが良くなり、少しずつですが住む人が増えています。

松浦市

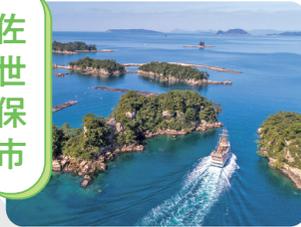


アジフライの聖地

松浦市は「アジフライの聖地」を宣言しました。お刺身でもおいしく食べられる新鮮なアジを、アツアツ・サクサク・フワフワのアジフライにして市内各店舗で提供しています。詳しくはアジフライマップをご覧ください。

自然に恵まれた 国際色豊かな港街

佐世保市



世界で最も美しい湾「九十九島」に代表される、豊かな自然に恵まれた街。旧海軍の軍港として栄えた歴史をもち、米海軍基地のある国際色豊かな港街でもあります。「ハウステンボス」など観光都市としても知られています。

波佐見町



伝統とモダン

400年の伝統をもつ「波佐見焼」。時代のトレンドや生活者ニーズを敏感に感じ取り、いち早く新しいものづくりに挑戦する、おしゃれで使いやすい「カジュアルリッチ」な陶磁器です。

川棚町



紺青色の羽

昭和38年にインドから友好の印として贈られた色鮮やかなインドくじゃく。大崎くじゃく園では現在約200羽飼育されており、春から初夏にかけては、求愛のため雄たちが紺青色のきれいな羽を広げます。

東彼杵町



日本一に輝いたお茶の名産地

「そのぎ茶」ブランドで親しまれるお茶は、全国茶品評会において4年連続で農林水産大臣賞を受賞。さらに、日本茶アワードでも3度の日本茶大賞に輝いています。1日1,000円で利用できるお試し住宅も好評です。

HIRADO P5



MATSUURA P6



IMARI

SAZA P12



SASEBO P4



ARITA

HASAMI P10



KAWATANA P9



HIGASHISONOGI P8



SAIKAI P7



大村湾

長崎空港



西九州させぼ
広域都市圏

山海の幸の宝庫

温暖な気候の西海市は、全国有数のみかんの産地です。また、三方を海で囲まれ、イセエビをはじめ海の幸にも恵まれています。どこにいても美しい海と山の景色を楽しむことができます。



西のまちの おだやかな 暮らし。

西九州させば広域都市圏とは？

長崎県佐世保市を連携中枢都市(中心市)として、長崎県平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町、新上五島町、佐賀県伊万里市、有田町の12の自治体が、県境を越えて「西九州させば広域都市圏(連携中枢都市圏)」を形成しています。

特に「移住サポート事業」では、9市町(佐世保市、平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町)の合同で移住特設サイトを準備し、広域圏サポーター登録を進めています。

平戸市



オランダとの 交流の先駆け

平戸市は日本でポルトガル貿易が初めて行われた港町です。日本100名城に選定された平戸城は、2021年春に日本初のお城に宿泊できる「城泊(キャッスル・ステイ)」施設が誕生する予定です。

小値賀町



島人のおもてなしが 心に残る島

リゾート施設もコンビニもありません。あるのは採れたてのおいしい野菜と、脂がのった新鮮な魚、昭和の懐かしい風景と、気さくで温かい人の心、おもてなしの心です。

西海市



宇久島

P12 OJIKA



五島列島

SHINKAMIGOTO

ニシノマチへ
コギダソウ。



西九州させば移住サポートプラザ
西九州させば広域都市圏移住サポート事務局

☎ 0956-25-9251

✉ uji-turn@city.sasebo.lg.jp

West Kyushu

西のまちの暮らし



親戚が営む九十九島かきの会社のECサイトでは、観光客に届く仕組みを構築しアクセスが倍増した。



地元の内側と外側を繋げる 橋渡し役を担いながら 住みたい町を実現する

有限会社パイブレイス
浦 芳郎 さん

Live in
長崎県
佐世保市

SASEBO
City

佐世保市相浦町で生まれ育った浦芳郎さんの経歴は、とにかくグローバルだ。高校卒業後にニューヨークと上海の大学に留学。帰国後、当時まだ社員数100名程度のベンチャー企業だった「ぐるなび」に入社する。その5年後には上海支社に移り、行政や民間企業と連携した日本食の輸出プロジェクトに取り組んだ。「今ではすっかり普及した刺身や弁当も、生産から流通、販売までのスキームを整えることで、徐々に浸透していきました」。食を中心とした橋渡し役を世界で担ってきた浦さんだが、ずっと心に決めていたのは、いつか地元で会社を営む両親のもとにUターンすることだった。「僕は人生を10年ごとに区切って、40代から佐世保市に戻りたいと考えていました」。まさに40歳となった昨年5月、会社を退職して妻と子どもとともに帰郷。生活拠点の変化は、両親にも良い影響をもたらした。「一時は会社をたたむことも考えていたようです。それが息子夫婦が帰ってきた今、まだまだ現役だと張り切っていますよ」。仕事面でも大きな転換となったが、30代まで積み重ねてきた経験を活かすチャ

ンスに恵まれる。佐世保市を中心とする長崎県内の一次産品食材を国内外に向けたブランドマーケティング事業を立ち上げ、東京、福岡、上海、台湾での商談会やイベントまで開催。地元にとっては当たり前でも、世界に誇れる質の高い食材を広く発信することができた。現在は、相浦町の広大な空き地を活用するプロジェクトに参加。地元と行政、民間企業のパイプ役を務めながら、一体感のあるまちづくりを目指す。「横の繋がりが強いのは佐世保市ならでは。Uターンして1年半で、驚くほどたくさん縁に恵まれましたし、東京や海外から手伝いに足を運んでくださる方もいます」。地元の内側と外側の人同士を繋ぐ浦さん。「自分たちで住みたいまちを作ればいいんだよね」という言葉から、主体的にまちや人と交わる前向きな明るさが伝わってきた。

Enjoy!



生活する自分たちで
ワクワクするような
まちを実現します!

相浦町の空き地活用では、自らも地権者の一人として参加。スポーツや医療、農業などをテーマに一体的な施設を計画中だ。

まずは!

すぐに住み始められる!

郊外・離島移住お試し住宅

住 佐世保市江迎町・佐世保市宇久町

2日以上から最大60日まで無料利用
(光熱水費等は負担)

テレビやエアコン、冷蔵庫、洗濯機など電化製品・食器やキッチン用品、寝具等も完備。

問 西九州させば移住サポートプラザ
uji-turn@city.sasebo.lg.jp
TEL:0956-25-9251



よかところ



くじゅうくしま
西海国立公園 九十九島

九十九島は、島の密度が日本一を誇り、大小合わせて208の島々が織りなす光景は壮観です。平成30年4月「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟認定されました。

よかもん



豊かな食の宝庫

年間を通じて、新鮮な魚介類や野菜、果物などを味わうことができます。中でも九十九島で育った牡蠣やトランプは、関東地方でも人気のブランド食材です。

佐世保市の魅力!
Yaka!

賑やかな市街地の暮らしも、
山や島暮らしもある
「ちょうどいいコンパクトシティ」



九十九島
とらふぐ



佐世保バーガー



九十九島かき

「Yoka (よか)」は九州で良い・優れているの意味



トッピングのジャムやチョコレートアイスも全て自家製。長崎和牛がごろっと入ったボリュームなカレーライスも人気メニュー。



夫婦の新たな生活を彩る 自家製アイスクリームが 移住先に笑顔をもたらす

みるく畑 つよし
大場 勤さん 伊津子さん

Live in

長崎県
平戸市

HIRADO
City

柔らかな口溶けとやさしい甘さに、誰もが自然と笑顔になる自家製ソフトクリーム。お店でもてなす大場勤さん・伊津子さん夫婦にとっても、平戸市という移住先での日々を彩る生きがいとなっている。もともと福岡市で大手ゼネコンの支店長をしていた勤さん。定年退職を機に「せっかくなら未経験のことを始めてみよう」と、夫婦二人でジェラート店を福岡県飯塚市に開業した。素材から吟味して、試行錯誤を繰り返した自家製ジェラートアイスは大好評。メディアにも取り上げられる人気店となり、慌ただしい日々を送っていた。伊津子さんは「毎朝十種類以上のジェラートを仕込んで夫婦二人でお店を回すので、特に暑い時期は



お客さんの喜ぶ顔が私たちの生きがい!



Enjoy!

一日中忙しくて。その頃から、いつか自分の父母が生まれ育った平戸市に移住して、ゆったりとした日々を過ごしたいと考えていました」と振り返る。そして14年続けたお店を知人に譲り、今年1月に平戸市に移住。ジェラートアイスに打ち込んでいた勤さんの「夫婦二人の生活を尊重しながら、移住後もできる範囲でお店を続けたい」という気持ちから、メニューを絞ったソフトクリーム店「みるく畑」を今年8月にオープンした。平戸市に移住して、お店に立ち寄り人たちとの距離感にも変化が生まれた。「以前は慌ただしい接客だったけど、今は世間話をしながら楽しく接客しています。それに平戸のきれいな海が魅力的で、地元の人もおいしくて趣味のお酒が進みますよ」と笑う伊津子さん。夫婦の生活も大切にしながら、勤さんのアイスに対するこだわりは変わらない。トッピングのジャムまで全て手作り、新メニューの開発にも励んでいる。その原動力となるのは、アイスを食べる喜び、人たちの笑顔だ。「休みの日はよく夫婦で九州内を旅行しますが、いつも旅先でジャムの材料になるものを探したり、他のお店のアイスを食べて研究しているんですよ。人の喜びが、自分たちの喜びになる。そんな心地よい連鎖が、夫婦二人の移住生活を輝かせている。

まずは!

お試し住宅から ひらど暮らし体験家屋

「海が見える薄香(うすか)住宅」と「市街地の木引田(きひきだ)住宅」の2棟を準備しています。



問 平戸市役所 地域協働課
定住推進班
TEL:0950-22-9105



よかところ



教会群と キリスタン関連遺産

平戸には多くの教会や、世界遺産に登録された「平戸の聖地と集落(中江ノ島)(春日集落と安満岳)」があります。

よかもん



平戸天然ひらめ

全国有数の水揚量を誇る「ひらめ」は1月中旬～3月末に旬を迎えます。「平戸天然ひらめまつり」も毎年開催され、市内の飲食店で、天然ひらめを使ったメニューを楽しめます。

平戸市の魅力!

Yaka!

キリスタン関連遺産や平戸城など「歴史とロマン」を感じながら豊かな自然の中で暮らすまち



高級魚で名高い「クエ(あら)」

平戸城と桜



家族の生活を中心に置いて 特技を活かして地域に貢献する 穏やかで素直になれる日々

みやだデザイン合同会社
宮田 悟史 さん 友香 さん



松浦市の情報を発信するサイト「青の大学」。外向きの情報に限らず、地元の方と地元の魅力を共有できる内容となっている。



Live in

長崎県
松浦市

MATSUURA
City

1日24時間の中で中心となるのは、大切な家族との暮らし。宮田悟史さん・友香さん夫婦は、大きな青い海のように穏やかな心で、毎日を健やかに暮らしている。福岡県の企画制作会社に務めていた友香さんは、当時松浦市のPR業務に従事。ロゴのデザインや企画立ち上げなど精力的に動いていたが、もっと地元で暮らす人の顔が見える距離で魅力を発信したいという気持ちから、松浦市の地域おこし協力隊となる。「初めて松浦市を訪れたときは、空の青さ、海の広さ、そして地元の人が親戚みたいに声をかけてくれることが印象的で、福岡市内からこんな近くにあることが意外でした」。協力隊としての大きな取り組みの一つが、松浦市の情報発信拠点となるサイト「青の大学」の立ち上げと運営だ。松浦市を愛する人を青大生と位置付けて、地域に根ざした活動を共有し、移住促進に繋げることが目的。友香さんは制作や取材を通して、地元の方との距離が近づいたそう。そして任期終了後も松浦市で暮らすことの後押しとなったのは、悟史さんの存在だった。「協力隊の期間は、松浦市で、やって

みよう」という感覚。結婚してからは、この場所ですべていいこう」と覚悟ができました」。神奈川県からUターンしてきた悟史さんは、都会で培ってきたスキルを活かしてプログラミング開発やHP制作に取り組みだけではなく、地元中高生向けの塾も開いている。「地方はニーズに合わせて動ける臨機応変さが大切かもしれません。家族との時間も大切にできていて、日々の暮らしに満足しています」。家事も子育ても夫婦で協力。友香さんも、家族の時間をベースにした生活に心地良さを感じている。「松浦市では子育てや食事、睡眠の時間を確保した上で、地元の方を対象にデザインの仕事も両立しています」。自分の得意なこと地域に貢献しながら、のんびり笑顔で家族と暮らす。そんな選択肢があることを知ることが、移住の第一歩となる。



長女の子ちゃんと長男の源くん。「町のみんが声をかけてくれて、子育ての環境としても恵まれています」と友香さんは話す。

松浦市の魅力! Yaka!

あじ・さばの水揚げは日本有数!
海の幸も山の幸も豊かな
食のコンパクトシティ



アジフライ

「アジフライの聖地」を宣言するほど、市民のソウルフードになっている。

本まぐろ



とらふぐ



よかもん

車えび

伊万里湾に面する天然の入り江を利用した養殖場で、愛情を込めて育てられている車えびです。その品質は豊洲市場で最高値を記録する程の高い評価を受けています。透明感とハリのある身とぷりぷりの食感、驚くほどの甘みがある極上の一品です。



よかところ

ほんなもん体験

農漁村の日常や生業をありのままに体験プログラム化し、地元の人々との交流もできるほんなもん(ほんもの)体験。一般向けのプログラムとして、船釣りや田舎料理作り、シーカヤックなどが楽しめる。

まずは!

賢資な松浦時間を体験

シーグラン(グランピング施設)

デザインされたグランピング施設。全室オーシャンビューのキャビン、潮風を感じるウッドデッキで賢資な時間を過ごすことができます。海と山の幸をふんだんに使ったパーベキューやSUPなどマリッジジャーも充実。



問 Glamping Village SeaGrand
TEL:0955-47-3911
(9時~19時)



家のすぐ近くが海という絶好の環境。仕事前の早朝に釣りを楽しむこともあるそう。

人との縁を大切にしながら 何気ない幸せを分かち合う

ありよし つねのり
有吉 常德 さん

Enjoy!



シロちゃん



マリンちゃん

有吉さんと一緒に移住してきた猫たち。
おいしい魚に恵まれた生活を満喫中だ。

Live in

長崎県
西海市

SAIKAI
City

自分の生活環境を変える移住には、大きな覚悟が必要だ。その後押しになるのは、豊かな自然かもしれないし、あたたかな人との出会いかもしれないし、愛する猫との生活ということもある。長年埼玉県で暮らしていた有吉常德さんは、大の猫好き。職場近くの野良猫を地域の人たちと協力して見守る活動を主宰し、外飼いの猫を世話する毎日だった。しかし環境の変化から猫を引き取ることになったものの、都会で複数猫を飼える住まいはごく一部。悩んでいたタイミングで、以前から移住の相談をしていた西海市役所の担当者から空き家物件の案内が届いた。「お話をいただいた時点で、西海市に住むような予感が

ありました」と有吉さん。知人の誘いで数年前からみかんの収穫の手伝いに西海市を毎年訪れるようになり、西海市の素晴らしい環境をとても気に入っていた。早速現地に足を運び、空き家物件を見た瞬間「予感が確信に変わった」そう。あつという間に引越を進め、2年前に移住を実現した。仕事は東京の翻訳会社に所属しながらテレワークで継続し、早朝や休日には趣味の釣りを満喫。地元で知り合った漁師の船に乗せてもらい、本格的な沖釣りをすることもある。「プロの漁師だから、釣れる場所をよくご存知なんですよ。そこで大きい魚が釣れると、日頃よりお世話になっていた大家さんや友人にもお裾分け。みんな喜んで西海の豊かな恵みに感謝する。そうやって幸せをみんなで共有するのが、この地域の暮らし方なんだと思います」。もちろん猫との生活にも満足している有吉さん。日々過ごす中で心の充実感が全く変わったと話します。「移住における不安の一つが、地域の方との人間関係。そういう面での悩みはなく、僕は人の縁にも恵まれています。その縁を大切に広げていくことが、人生の豊かさに繋がると考えています」。猫がきっかけで繋がった人の縁が、有吉さんの新しい生活をさらに充実させてくれる。

西海市の魅力!

Yaka!

人も土地も穏やか
豊かな海域に囲まれた
海の幸・山の幸の宝庫

ユニークで
かわいいバス停が
あちこちに



新鮮な特産物が
楽しめる
「さいかい丼」



まずは! 民泊・ゲストハウスで
西海暮らしを体験

さいかい田舎暮らし体験補助金

西海市への居住やお仕事をお探しの方へ、農林漁業体験民泊や既存移住者との交流を行うゲストハウスの宿泊費用の一部を補助する「さいかい田舎暮らし体験補助金」があります。



問 農林漁業体験民泊について
山と海の郷さいかい事務局
0959-33-2525

さいかい田舎暮らし体験補助金について
西海市政策企画課 0959-37-0063



よかところ

音浴博物館

山の中に佇む廃校を利用した「音」の博物館です。約16万枚ものレコードが所蔵され、100年以上前のエンジン式手回し蓄音機や「世界遺産級」そもいわれるスピーカーで実際にレコードを聴くことができます。



よかもん

ぎゅぎゅっと! 西海

西海市では、豊かな自然がもたらす恵み、交流によって育まれる歴史・文化、それらを活かす人々の想いによって、多くの産品が生み出されています。その中でも、特に厳選した産品や観光資源を西海ブランド「ぎゅぎゅっと! 西海」に選定しています。



観光客を受け入れる茶農家の中山久嗣さん・節子さん夫婦。



東彼杵町ふるさと交流センター
飯塚 将次さん

素直な心で見つめ直した 地域に息づく魅力を 力を合わせて広げていく



外国人観光客から人気のグリーンティーリズム。お茶を通して日本の暮らしを知る機会となっている。

2014年からスタートした東彼杵町のグリーンティーリズム。地元の茶農家が国内外の観光客を受け入れて、実際に茶畑を案内して日本茶のおいしさや楽しみ方、歴史を伝える交流型のツアーだ。地域おこし協力隊、そして任期終了後は東彼杵町のふるさと交流センター職員として携わる飯塚将次さんは、農家と行政、観光客の間を調整役として繋ぎながら、一から仕組みを作り上げてきた。「特に外国人観光客から喜ばれていて、日本文化への興味からお茶のことを知りたいという方がよく参加しています。会話はグーグルの翻訳機能を駆使していますが、茶農家さんのあたたかなもてなしの心は、外国の方にもしっかりと伝わっています」。こうした活動を通して東彼杵町になくはない存在となった飯塚さんだが、7年前に千葉県からターニングする際には、お茶で有名な土地ということも知らなかったそう。「詳しい事前知識のない移住でしたが、ある意味、先入観なくまっさらな気持ちで深く町を知ることができたかもしれません。それに最初から地元の方が快く歓迎してくれて、今

Live in

長崎県
東彼杵町

HIGASHI
SONOGI
Cho

でも可愛がっていただいています」と笑顔。また移住した年に子どもが生まれ、子育ての環境としても居心地の良さを感じた。「散歩しているといろんな方が「かわいかね〜」と気軽に声をかけてくれて、子どものおかげでよりスムーズに馴染めたと思います」。東彼杵町は若い世代の茶農家が積極的に活動しており、関東からのUターンや移住者も増加。飯塚さんも一緒になって地域を盛り上げていきたいと意気込む。「東彼杵町のお茶、そして地域のみなさんには、まだまだ大きな可能性がありますし、小さい町だからこそ力を合わせて同じ方向を目指す必要があります。今後も面白い取り組みにどんどん関わっていきたいです」。地域の魅力を見つめ直し、時代に合った形で発信する。そのために必要なのは、広い視野で人を繋ぐ調整力なのかもしれない。



Enjoy!

移住した年に生まれた子どもも地域の中ですくすく育ち「もうすっかりそのぎ弁ですもんね」と笑う飯塚さん。2年前からまちづくりに挑戦中。

まずは!

古民家をリフォームした お試し住宅「大迫の宿」

築120年の古民家をリフォームし、別棟に檜風呂がついています。最大で29泊30日間の利用が可能です。



長崎空港発着の場合、レンタカーの補助も行っていきます。

問 東彼杵町役場まちづくり課
TEL:0957-46-1286



よかところ



JR千綿駅

昭和3年に建てられた駅舎を平成5年に改築。レトロな面影はそのままに、今や町のランドマークとなっています。ホームから望む大村湾の絶景と、駅舎内で営業する「千綿食堂」が多くの観光客を魅了しています。

よかもん



そのぎ茶

全国茶品評会において日本一のそのぎ茶は、ふくよかな味と香りが楽しめる長崎県を代表する名産品です。道の駅「彼杵の荘」では、町内の茶商や生産農家のお茶がずらりと並び、そのぎ茶の加工商品なども購入できます。

東彼杵町の魅力! Yaka!

茶畑と連なる山々の景色や大村湾に映える美しい夕日など日本の原風景が広がる癒しのまち

茶ちゃ焼き



地元農産物が集まる道の駅「彼杵の荘」



愛犬のニックネームが店名の由来。併設して運営する「10歩Garage」では、シーカヤック体験のガイドを務める。

一期一会の出会いから始まる 思いもよらない移住生活

BUCO café (ブーコカフェ)
松隈 靖之さん 文さん



Enjoy!



夫婦が工夫を凝らしたメニューの数々。景色を眺めながらゆっくり過ごす人が多いそう。

Live in

長崎県
川棚町

KAWATANA
Cho

穏やかな水面が輝く大村湾のそばに建つ、牧歌的で居心地の良い「BUCO café」。お店を営む松隈靖之さん・文さん夫婦は、念願の夢を叶えたのかと思いきや「カフェをすることも、そもそも移住することも全く予想していませんでした」と照れ笑い。もともと福岡県を拠点としながら、靖之さんはデザイナー、文さんはイラストレーターとして活動。徐々にワンルームでの仕事や生活が手狭になり、2人でゆったり仕事ができるセカンドハウスを探る中で、川棚町にある物件の見学会に軽い気持ちで参加したことがきっかけとなる。「午前中に見学して、昼ご飯を食べるときには『買います』と宣言していました(笑)」。惚れ込んだ理由は、抜

群のロケーションと目の前の船着場。船舶免許も取得し、趣味の釣りを本格的に楽しみたいと考えていた靖之さんにとって絶好の物件だった。しかし店舗向けの建物だったためそのまま住居として使うことはできず、せっかくなら人が集まる場所にしたいと、2019年5月に週末限定のカフェをオープン。道の向かいが海という絶景は、遠方からの客はもちろん、地元客も見惚れるほど。オープンからしばらくは、平日は福岡、週末に川棚町でカフェ営業。慌ただしくも充実した生活の中で、徐々に川棚町で暮らす人の営みに惹かれていったそう。文さんは「みんな自分の家の玄関だけではなく、周りの道まできれいに掃除していて、町内清掃には高齢の方も全員が参加。行政任せにせず、自分たちが暮らす町を率先してきれいにする。そういう意識が浸透しているのは素敵ですよ」と話す。そして12月に夫婦で川棚町に移住。現在もデザイナーの仕事とカフェを両立している。「結局忙しくて釣りもあまりできていませんが、週末にカフェを開けることでいろいろな人が訪ねてきてくれて、これまで味わったことのない新鮮な喜びを感じています」と靖之さん。一つひとつの出会いが、夫婦の新しい生活を導いていく。

川棚町の魅力! Yaka!

大村湾など豊かな自然に囲まれ
海水浴場やキャンプ、温泉など
レジャースポットが満載



よかところ



よかもん

10歩 Garage

BUCO caféに併設された10歩で大村湾(大村湾)に行けるシーカヤックの体験スポット。シーカヤックを体験したあとはカフェでゆっくりティータイムも楽しめます。

川棚なまこ

ミネラルが豊富な大村湾で育ったナマコは、12月から1月までの限られた時期でしか獲れない貴重な海産物(特産品)です。薄切りにして大根おろしを入れたポン酢または三杯酢で食べるのがオススメです。

川棚町
大崎自然公園
くじゃく園



川棚大崎温泉
「しおいの湯」



まずは!

ショートステイにぴったりの
温泉に入れるログハウス

住 川棚町小串郷

大崎半島にあるログハウスです。温泉施設しおいの湯や国民宿舎くじゃく荘のレストランも利用でき、3棟のうち1棟はベッドと宿泊できます。



トイレ・エアコン・テレビ
素泊まり3,000円/1名
※2名~4名の場合(2,500円/1名)
※GW、お盆、年末年始等は別途追加料金の設定あり

問 国民宿舎くじゃく荘 TEL:0956-82-2661

自然の中で協力し合い 季節を感じながら暮らす 心を通わせた家族の在り方

地域おこし協力隊

河内 拓馬さん 友紀乃さん



建築関係の仕事をしている拓馬さん。
自分たちで古民家を改修している。



Live in

長崎県
波佐見町

HASAMI
Cho

青々とした棚田が並ぶ山間の道を登ると現れる、大きくどっしり構えた古民家。その庭先でヤギと遊ぶ子どもたちと、優しく見守る父と母。穏やかな家族の暮らしは、豊かな自然と地域との繋がりの中で育まれている。東京で暮らしていた河内拓馬さん・友紀乃さん夫婦が波佐見町に移住したのは3年前。子育てに適した環境で、家族の生活を見直したいという気持ちから移住先を探る中、地域おこし協力隊の募集がきっかけとなり決心した。都会生活が当たり前だった夫婦は、地域の繋がりの強さに最初は戸惑ったそう。「しよっちゅう草刈りや行事に駆り出されて、とにかく人との距離が近い印象で。ただ皆さん親切に、一家での移住をあたたく迎えてくれました」と振り返る拓馬さん。今ではすっかり溶け込み、狩猟免許まで取得。山に出没する猪を地域の方と捕まえて解体し、食肉への加工まで取り組んだ。友紀乃さんは自ら制作した服をオンラインやイベントで販売。波佐見焼で有名なものづくりの町という土地柄からか、周囲にも手仕事を得意とする人が多いそう。そして移住を通して、家族の関係性

も変わったと話す。「以前は夫婦それぞれ忙しく働いて、個人プレーで生活している感覚でした。でも波佐見町に移住してからは、家族みんなで協力するチームプレーの中で生活しています。それに子どもたちも、自然の中で生き物に触れながら自由に遊ぶことで、以前より怖がらなくなりました」。協力隊として空き家活用に取り組んできた拓馬さん。現在は古民家を自ら改修中で、来年春には農泊体験施設としてオープンする予定だ。「移住してから四季を身近に感じるようになりました。野菜売り場には旬の野菜が並んでいて、それをうまく取り入れながら暮らす日々が楽しくて。農泊でも、季節に寄り添った体験を提供していきたいですね」。地域で助け合い、自然の恵みを活かして暮らす。そんな家族の在り方が、懐かしくも新鮮に感じられた。



Enjoy!

長男の和馬くんと長女の野々穂ちゃん。ヤギのこむぎちゃんやつくも、大切な家族の一員だ。



波佐見町の魅力! Yaka!

歴史ある焼き物のまちに
新しい風がふき
豊かな交流が生まれる

日本の棚田百選
にも選ばれた
鬼木棚田



波佐見
やきもの公園

まずは!

水田風景が窓から広がる

波佐見町お試し住宅

住 波佐見町長野郷

期間:2日~30日間
料金:2泊3日まで6,000円
4日以降~7日まで
⇒1日あたり1,000円加算
8日以降~30日まで
⇒1日あたり500円加算



問 波佐見町役場

TEL:0956-85-8400

よかところ



西の原

元製陶所として使用されていたエリア内の施設をリノベーションし、全く新しい空間として再生された西の原。ノスタルジックな雰囲気の中に、アート、デザイン、工房、オーガニック食品など現在のライフスタイルに合わせた商品が並びます。

よかところ



波佐見焼

「波佐見焼」は約400年前、慶長年間から始まったとされる歴史ある陶磁器で、丈夫で割れにくく、手ごろな価格で手に入る食器として流通しました。現在はオシャレでカワイイやきものとして女性からの人気が高まっています。



「ずっと一緒にいるから仲の良い友だちみたい」と笑う長谷川さん夫婦。以前より考えていることを話す機会がお互いに増えたそう。

顔の見える地域に根ざした ありのままの暮らしを伝える

暮らしを育む家 弥三
長谷川 雄生さん 沙織さん

Live in

長崎県

小値賀町

OJIKA
Cho

ともに作り、ともに語らい、ともに暮らす。古民家の一つ屋根の下で過ごす時は、訪れる旅人にとっても、そして宿で暮らす長谷川雄生さん・沙織さん夫婦にとっても、かけがえのないものだ。以前は東京で建設コンサルタントをしていた雄生さん。商店街や公園などコミュニティの中心となる場所を手掛けていたが、地域との限られた関わり方に、手応えが感じられなかつたと振り返る。ストレスを溜めながら働いてお金を得て、ストレスを解消するためにお金を浪費する。そんな都会生活への言葉にならない違和感も膨らみ、いつしか地方に根を張った生活を望むように。そんな折、沙織さんがふと「夫婦で宿が



薪を割ってお湯を沸かすところから体験してもらいます

Enjoy!



小値賀の野菜や魚を使った家庭的な料理。心のこもった素直なおいしさに会話も弾む。

したい」と思い立つ。「全く知識も経験もない状態でしたけど、それしか考えられなくて」。突然の相談だが、不思議と納得できた雄生さん。移住先を探すのと合わせて、地方の宿巡りを実行した。「ピンからキリまで、いろんな宿をまわりました」と話す二人は、この旅を通して自分たちの暮らし自体も見つめ直す。その中で軸となったのが、火のある暮らし。炭火で米を炊き、薪で湯を沸かす。自然と隣り合わせの昔ながらの日本の暮らしを自分たちが実践し、それを宿として提供することで喜んでもらえたら。こうした想いで実現したのが、築100年以上の古民家を改修した民泊「弥三」。選んだ土地は、人口約2300人ほどの小値賀町だ。移住の糸口となったのは、先輩移住者との出会い。「こんな暮らしができた」と共感できる身近な存在がいること、そして地元の小さなコミュニティならではの顔の見える関係性に、安心感を抱いた。移住して宿を始めてからは、多種多様な旅人と友だちになれるのが嬉しいと語る雄生さん。「宿での出会いが、僕たちの人生をすごく楽しくしてくれています」。暮らしを見つめ直すことは、生き方を見つめ直すこと。夫婦があらのままの暮らしを営む宿で、今日もあたたかな交流が育まれている。

小値賀町の魅力! Yaka!

ゆったりとした島じかんの中で
日本古来の暮らしを営む島



日本松百選
姫の松原

かんころ餅



まずは!

居住が決まれば全額返金!

小値賀町のお試し住宅

住 小値賀町笛吹郷

1か月〜3か月にかけて島暮らしを体験できる「お試し住宅」。賃料は月額30,000円ですが、1年以内に移住された場合は、全額キャッシュバックされます。(光熱水費のみ実費)



問 小値賀町役場
TEL:0959-56-3111

よかところ



野崎島

小値賀島本島から2キロ東に位置するのが「野崎島」です。島内全域には、野生のニホンジカ400頭以上が生息し、自然のままの姿を観察することができます。また、「野崎島の集落跡」は長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産に認定されています。

よかもん



ヒラマサ漬け(とけたらとれたて)

贅沢な島めし「ヒラマサの漬け井」を、手軽に味わえるのが「とけたらとれたて」。その名の通り、新鮮で最高に美味しい状態の漬けを-60度で瞬間冷凍し、うまみを閉じ込めたものです。流水で3分解凍するだけでお召し上がりいただけます。

歴史を学ぶことで 景色の見え方が変わり 町への誇りが生まれる

郷土史家
みかづき ゆうすけ
拙 由典 さん



佐々川沿いを一緒に歩きながら解説。子どもたちも興味津々でついてくるそう。



Live in

長崎県
佐々町

SAZA
Cho

地域で暮らす人々が積み重ねてきた歴史。それを改めて学んだ上で景色を眺めると、何気ない山や川から、雄大な物語が見えてくる。「この佐々川には明治時代まで橋がなく、昔は飛び石をトントンと渡っていたんですよ。旅人やお客様はもちろん、江戸時代、測量で訪れた伊能忠敬も、日記に佐々川を飛び石で渡ったと書いています」。そんな佐々町の歴史を軽快な語り口で教えてくれる郷土史家・拙由典さん。慣れ親しんだ生まれ故郷への想いから、2004年に郷土史を執筆。それがきっかけとなり、地域の歴史を解説する講師として小学校の授業に呼ばれるようになった。「中心部を流れる清流の佐々川に着目すると、町の歴史が見えてきます。佐々町は室町時代から江戸時代にかけて大規模な干拓事業があり、田んぼの整備が行われました。海の恵み、山の恵みのおかげで人々は豊かに暮らすことができたんですね。そして明治時代は炭鉱で大きく栄え、いち早く鉄道が敷かれて石炭を運んでいたんですよ。地元の歴史を語る拙さんは、心から楽しそうな表情。自然の中で育った思い出話も交えながら解説する。「佐々川では、3月

はシロウオ、6月から10月にはうなぎが獲れます。そうした生き物との関わりを通して、小さい頃から季節の変化を感じていました」。佐世保市と隣接した佐々町は、都会的な利便性と自然の温もりが両立した地域。住みやすく子育てにも適した場所で、移住者も増加傾向にある。拙さんは、佐々町には外から訪れた人を受け入れる風土があると語る。「かつては平戸藩との関わりも深く、歴史的に見ても様々な地域から人が訪れる場所でした。私の先祖も四国からの移住者ですが、すっかり根を下ろしています。毎日の楽しみは、堤防道路の散歩。この付近は、かつて大海原の真ん中だったことを考えると、夜の星空もより輝いて見えますね」。長く住む場所だからこそ、歩んできた歴史をきちんと知る。それが未来の暮らしへの糧となるはずだ。

Enjoy!



佐々川で行われるシロウオ漁の様子。

注目!

佐々川の様に清らかな環境で

子育てにやさしい町

屋内交流の場「ぶくぶくクラブ」、屋外交流の場「でんでんパーク☆さざ」では、保護者同士が交流し、子育ての悩みや解決の場にもなっています。給食費の一部補助や、電子黒板の全教室設置、タブレットの整備などICT教育も充実しています。豊かな自然と良好で快適な住環境が共存する「住みよい町・子育てにやさしい町」を目指しています。



血山公園

血山公園にある菖蒲園では、県北一、約2万株の花菖蒲が毎年5月下旬から6月上旬に見ごろを迎えます。また、隣接する血山直売所では、地元産の新鮮な野菜や特産品などがお買い求めいただけます。



佐々川のシロウオ漁と河津桜

2月中旬から3月中旬にかけて、下流の川岸から足場を組み、そこから「四つ手網」を降ろして、遡上してくるシロウオを獲る独特のシロウオ漁が、川岸で満開を迎える河津桜とともに春の訪れを告げる風物詩となっています。

佐々町の魅力!

Yaka!

町の中心を清流佐々川が流れるコンパクトにまとまった街



シロウオ料理

We are Coordinator

Support plaza

Ikeda

Matsumaru

Kubo



12 市町の移住の窓口

西九州させぼ
移住サポート
プラザ

あたたかな九州のおもてなし

移住のコト、常に全力！ 広域移住コーディネーター

個性あふれる12市町の情報や魅力を
移住のスペシャリストがご案内！

広域圏内の地域情報から支援制度まで 一人ひとりのニーズに合わせて提供

12市町への移住を包括的にサポートする「西九州させぼ移住サポートプラザ」は、佐世保らしい港の景色が広がる新みなとターミナル1階に窓口を設けている。各市町の移住情報の提供や相談対応だけでなく、電動自転車の貸し出しや、車で実際に市町を案内することも。コンパクトな広域都市圏は、住む場所と働く場所、それぞれ適した場所を選んで両立させることが可能。経験豊富なスタッフがニーズに合わせた情報を提供してくれる。

オンライン相談会
もスタート！



「移住コーディネーター」がエリアの魅力を発信

私たち移住コーディネーターは、相談内容に基づいて移住先や最適なエリアをコーディネートしたり、実際にその場所の生活圏内のご案内もします。また自ら取材した市町の情報などをSNSで発信。まだ移住を決めていない方もお気軽にご相談ください。



移住マネージャー
久保 佑介さん

佐世保市在住。町の魅力は「海や山が身近にありながら、交通や買い物に困らない利便性もあるところ」と話す。

Information

移住サポートに関する情報を
楽しく分かりやすい動画で紹介！

プラザのスタッフが支援制度や市町の情報を紹介するYouTube動画「くっけん！佐世保」や、実際に移住を実現した方の取材インタビューなど、動画でも移住に関する情報をお伝えします。

移住コーディネーター
松丸 美奈子さん



Campaign

圏域に関する情報をメールでお届けする
「広域圏サポーター登録キャンペーン」実施中！

メールマガジンにご登録いただいた方には、毎月広域都市圏の魅力や移住に関する情報をお送りしています。また登録者を対象に、個別移住体験ツアーも受付中です。

登録者の中から抽選で合計60名の方に

佐世保バーガーボーイ
ストラッププレゼント



サポーター登録は
コチラ

移住コーディネーター 池田 倫さん



@sasebokoikiUJI @sasebokoiki_UJI @sasebokoiki_uji

西九州させぼ
移住サポートプラザ

(西九州させぼ広域都市圏移住サポート事務局)

佐世保市新港町8-1(新みなとターミナル内)
相談時間：平日8時30分～17時15分(土曜、日曜、祝日、夕刻は要予約)
TEL:0956-25-9251 FAX:0956-25-3311



←特設
移住サイト



あなたらしい
新しい生活を
応援します

各市町

移住支援制度の ご紹介



西九州させぽ
広域都市圏

佐世保市

●子育て世帯支援

中学生以下の子どもを有している世帯で、移住し、かつ就業(正規雇用)する方に移住助成金(7万円)を交付し、賃貸家賃の一部(最大10万円)を支援します。※離島加算有

●賃貸住宅入居支援

市内の賃貸住宅に居住し移住する方に対して、家賃の一部を補助します。(最大5万円)※離島加算有

●奨学金返還サポート

奨学金の返還義務を有する佐世保市内で就業する若者に対し、佐世保市奨学金等返還補助金を交付します。(奨学金返還年額の2/3~1/3の額を最長10年間交付)

松浦市

●住宅取得支援

移住し定住される方に、住宅の新築や中古住宅の取得経費の一部を補助します(最大100万円+子育て世帯加算あり)。また、空き家バンク登録物件である中古住宅の改修費用の一部を補助します。

●就職応援奨励金

Uターン又は学校卒業から1年以内に就職し、5年以上居住される方に、奨励金を交付します。(15万円分の地域振興券)※地域振興券…市内店舗で利用できる地域通貨

●若者生活応援(新婚生活応援)

34歳以下の夫婦で、夫婦の合計所得金額が340万円未満で、市内に新居があり、夫婦の両方又は一方の住民票が新居の住所である世帯に住居費及び引越費用の一部を補助します。(最大30万円)

東彼杵町

●中古住宅改修支援

Uターン者の空き家バンク物件入居に当たって、改修に係る経費の一部を補助します。(最大100万円)
※公共下水道接続または浄化槽設置の場合は15万円加算

●移住奨励金

Uターン者の空き家バンク家屋へ入居が決まった方には、奨励金を交付します。(最大20万円)

●若者生活応援(新婚生活応援)

婚姻の届出から1年以内の夫婦(合計年齢が80歳未満)の方に、最長2年間にわたり民間住宅家賃等の支援を行います。(最大2万円/月 最長24ヵ月)

波佐見町

●中古住宅改修支援

Uターンで、居住を目的として町内の空き家の改修をされる方、また起業を目的として空き工場の改修を行う方に、改修経費の一部を補助します。(最大50万円)

●住宅取得支援

Uターンで、町内に定住を目的として、新築住宅、建売住宅、中古住宅を取得される方に、取得費の一部を補助します。(最大 現金66万円+商品券12万円)

●賃貸住宅入居支援

賃貸住宅に移住する方(18歳以上40歳未満、かつ前年度所得が世帯合計340万円以下、かつ町内で就業又は創業される方)に家賃の一部を補助します。(上限6万円)

佐々町

●母子保健サポート支援

母子健康手帳の交付から妊婦健診に対する公費負担、出産後の乳児家庭全戸訪問、0歳児・1歳児・3歳児・5歳児・就学前健診や相談をとおり、子育てに対する負担の軽減を行うなどサポート支援します。

●福祉医療費助成

乳幼児などの医療費助成に加えて、町独自で高校生までの医療費(1医療機関あたり月ごと自己負担額800円/日、1,600円/2日以上を控除した額)を助成し、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

●羽ばたけ若者人材育成奨学金

佐々町から将来を担う有用な人材の育成・支援を目的に、申請者の中から成績などを勘案して選考し、1名につき30万円の奨学金を給付します。

平戸市

●住宅取得支援

新規に転入される方で、転入後、5年以内に住宅を取得される方に住宅取得経費の一部を補助します。(最大200万円)

●中古住宅改修支援

新規に転入される方やUターンされる方で、定住を目的として移住される方に改修経費の一部を補助します。(最大50万円)

●移住費用支援

新規に転入される方で、定住を目的として平戸市に移住される方の移住にかかる経費の一部を補助します。(最大20万円)

西海市

●新たな就農者支援事業

西海市では令和2年度から県下トップクラスの新規就農者の支援制度を創設しました。農業での自立を目指す就農希望者への支援(営農に係る生活費や経費への補助)を図りながら地域農業の中心となる担い手の育成と確保を目指しています。

●中古住宅の改修支援

「3年間市外に居住し、定住意思をもって転入される方」又は「3年間市外に居住し、定住意思をもって転入された方で1年未満の方」を対象に、居住用として活用される市内の空き家の改修経費の一部を補助します。(最大60万円※世帯員加算最大120万円)

●若者生活応援(新婚生活応援)

婚姻届提出日から1年以内の夫婦で、一方が市内に1年以上住所を有し、申請時の年齢が40歳未満(一方で可)である世帯の方に、居住用として活用される市内の空き家の改修経費の一部を補助します。(最大60万円※世帯員加算最大120万円)

川棚町

●若者生活応援(新婚生活応援)

夫婦(ともに婚姻日における年齢が34歳以下)の合計所得金額が340万円未満で、町内に新居があり、夫婦の両方または一方の住民票が新居の住所になっている世帯に住居費および引越費用の一部を補助します。(最大30万円)

●子育て応援住宅支援事業

安心して子育てができる住環境を整備するため、多子世帯や三世代で同居・近居するための中古住宅や住宅改修に係る経費の一部を補助します。

小値賀町

●農業・漁業研修支援

農業・漁業の研修生の受け入れを行っています。研修生は給料(16万円)受給し、独立を目指し研修を受けることができます。
※給料の1ターン加算有

●新規事業支援

新たに農水産商工業へ就業する方、もしくは後継者となる方(18歳以上60歳未満)を対象に、準備金を支給します。(50万円)

●若者生活応援(新婚生活応援)

Uターンで2年以上定住された方(18歳から40歳)に奨励金(5万円)を支給します。また、町内で籍を入れ、定住される夫婦に結婚祝金(10万円)をお渡しします。

広域圏で 共通の支援

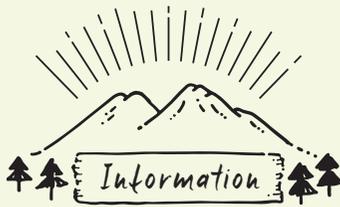
●移住支援金事業

東京圏から長崎県に移住し、就職または創業された方を対象に、移住支援金100万円※世帯の場合(単身の場合は60万円)を支援します。

詳しくは
こちら→



※上記の移住支援制度のほかにも、市町それぞれに移住にかかる支援制度(取り組み)がございます。支援制度には、ほかにも詳細な要件があります。詳しくは、各市町窓口へお尋ねください。



移住相談窓口 & 情報サイト

地域のことや、仕事、支援制度のことは各市町の専用窓口へお問い合わせください。

佐世保市 西九州させぼ移住サポートプラザ
☎0956-25-9251



佐世保
移住サポートサイト
支援制度情報など



お試し住宅
(佐世保市)
お試し住宅利用案内



佐世保市 空き家バンク「させぼ暮らし」
(佐世保市)
空き家物件検索・移住者インタビューなど

平戸市 地域協働課
☎0950-22-9105



移住支援制度
(平戸市)
支援制度情報一覧



空き家バンク
(平戸市)
空き家物件情報一覧



平戸市 お試し住宅
“ひらど暮らし体験家屋”
お試し住宅利用案内

松浦市 政策企画課
☎0956-72-1111



大人の学び場
「青の大学」(松浦市)
支援制度情報など



松浦市の田舎暮らし
(Uターン)情報
移住関連情報など



お試し住宅
(松浦市)
お試し住宅利用案内



松浦市 空き家バンク
(松浦市)
空き家物件情報一覧

西海市 政策企画課
☎0959-37-0063



西海市に暮らす
～地方への移住をお考えの方へ～
西海市について・移住者インタビュー動画など



新たな就農
支援事業
支援制度の詳細



空き家・空き地情報バンク
(西海市)
空き家物件情報一覧

東彼杵町 まちづくり課
☎0957-46-1111



定住支援事業の
ご案内(東彼杵町)
支援制度情報など



お試し住宅
「大迫の宿」
お試し住宅利用案内



東彼杵町 空き家バンク
(東彼杵町)
空き家物件情報一覧

川棚町 企画財政課
☎0956-82-6116



川棚町
移住定住サイト
移住関連情報など



川棚町 空き家バンク
(川棚町)
空き家物件情報一覧



川棚町 空き店舗情報
(川棚町)
空き店舗情報一覧

波佐見町 企画財政課
☎0956-85-8400



移住・定住について
(波佐見町)
波佐見町についてなど



お試し住宅
(波佐見町)
お試し住宅利用案内



空き家バンク
(波佐見町)
空き家物件情報一覧



波佐見
空き工房バンク
空き工房情報一覧

小値賀町 総務課
☎0959-56-3111



「Ojical-おちかる」
移住ポータルサイト
移住関連情報など



移住のご案内
(小値賀町)
小値賀町についてなど



お試し住宅
(小値賀町)
お試し住宅利用案内



空き家バンク
(小値賀町)
空き家物件情報一覧

新上五島町
総合政策課
☎0959-53-1113



新上五島
交流プラザ

佐賀県伊万里市
企業誘致・商工振興課
☎0955-23-2172



移住・定住
支援サイト

佐賀県有田町
まちづくり課
☎0955-46-2990



有田町
ホームページ

佐々町 企画財政課
☎0956-62-2101



「佐々で暮らす」
移住ポータルサイト
移住関連情報など



佐々暮らし
(佐々町)
移住に関する情報



ながさき移住
サポートセンター
長崎本部 ☎095-894-3581(直通)
東京窓口 ☎080-7735-3852(直通)

ながさき移住ナビ





あなたが
かえるまち

西九州



公式サイト



西九州させぼ移住サポートプラザ
西九州させぼ広域都市圏移住サポート事務局

長崎県佐世保市新港町 8-1 (新みなとターミナル内)

相談時間: 平日 8時30分～17時15分
(土曜、日曜、祝日、夕刻は要予約)

TEL:0956-25-9251 FAX:0956-25-3311

Facebook @sasebokoiki_UJI

Twitter @sasebokoiki_UJI

Instagram @sasebokoiki_uji

YouTube

